

指定管理者評価表（外部評価シート）

1. 基本事項		評価対象期間	令和3年4月1日 ~ 令和5年3月31日		
施設の概要		指定管理の状況			
名称	啓発宿泊研修施設（わくわく体験館）	指定管理者	名称	有限会社可児ガラス工房	
所在地	可児市塩河1071番地4		所在地	可児市塩河3153番地の1	
設置目的	<設置目的> 広く廃棄物処理及びリサイクルの啓発を図る <事業> ①廃棄物処理及びリサイクルについての学習 ②環境学習 ③地域のふれあい ④管理者が特に認めること	指定管理期間	令和3年4月1日 ~ 令和8年3月31日（1期目）		
		選定種別	公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募 <input type="checkbox"/>	利用料金制	採用（一部 <input checked="" type="checkbox"/> 完全 <input type="checkbox"/> ） <input checked="" type="checkbox"/> 不採用 <input type="checkbox"/>
供用開始年月	平成11年5月	業務内容	<事業> (1) 文化芸術の向上、スポーツ・レクレーションの振興に関する事業 (2) 施設等の管理運営に関する委託事業 (3) その他目的を達成するために必要な事業		
施設所管部署	業務課 施設2係				

2. 施設の運営状況

① 利用状況

項目	令和3年度（1年目）	令和4年度（2年目）
開館日数	294日	296日
施設利用者数	10,120人	14,400人
施設稼働率	80.5%	81.1%

② 自主事業実施状況

項目	令和3年度（1年目）	令和4年度（2年目）
開催回数	483回	499回
参加人数	5,411人	8,386人

③ 主な自主事業の内容

実施年度	事業の名称等	参加人数
令和3年度	リサイクル講座	361人
	出前講座	547人
	企画講座	230人
	作品展 来場者として	1,840人
	年度合計	2,978人
令和4年度	リサイクル講座	294人
	出前講座	564人
	企画講座	301人
	作品展 来場者として	2,749人
	年度合計	3,908人

3. 収支状況

① 収入

単位：円

項目	令和3年度（1年目）	令和4年度（2年目）	
	実績	計画	実績
指定管理料	59,000,000	59,000,000	59,000,000
利用料収入	663,000	800,000	693,000
自主事業収入	8,914,000	12,700,000	16,636,000
その他	1,000	0	0
収入計 A	68,578,000	72,500,000	76,329,000

② 支出

単位：円

項目	令和3年度（1年目）	令和4年度（2年目）	
	実績	計画	実績
人件費	42,533,000	41,000,000	45,020,000
管理費	16,461,000	20,220,000	17,475,000
事務費/法人運営費	701,000	1,280,000	1,430,000
事務費/講座等開催費	2,157,000	5,000,000	3,809,000
修繕費	196,000	500,000	675,000
租税公課等	3,218,000	4,500,000	4,691,000
支出計 B	65,266,000	72,500,000	73,100,000
収支 A-B	3,312,000	0	3,229,000

4. 評価結果

区分	評価項目	評価内容	一次評価（施設所管課）		二次評価（選定評価委員会）	
			評価理由等	評価	評価理由等	評価
業務の履行	事業計画書及び協定書に掲げる業務の実施状況	事業計画書や協定書に掲げる業務が確実に実行されているか	新型コロナウイルス感染の影響により人数制限や中止を行いながら、協定書及び事業計画書に基づき適正に業務が実施されている。	B	新型コロナウイルス感染の影響により施設利用中止や利用制限されながらの運営ではあったが、危機管理体制を整え大きな事故や怪我、そしてクラスターを発生させることなく事業計画に基づき適正に事業を展開されていることは評価できる。	B
	人員配置及び職員研修の状況	必要な人員が確保され、職員研修も実施されているか	必要な事務員及び講師が確保され、感染防止対策の中で調整し職務に務めている。職員研修等計画的に実務に関する安全研修及び先進地への研修など実施された。	B		
	文書・帳簿の管理保存状況	管理業務に関する文書・帳簿は適切に整理保管されているか	事務所の書棚に整理整頓され閉館時に施錠を行い管理されている。	B		
	施設設備・備品の保守管理の実施状況	管理施設の設備・備品の保守管理状況は適切か	法律に基づく点検、整備は適切に実施し管理されている。施設の機器や設備の故障時には、組合と共有しながら迅速に対応している。	B		
	緊急時の対応方法	緊急時の対応マニュアルや事後の対応への備えができていないか	緊急時の危機管理マニュアルが事務所の見える場所に配置され、各種災害の対応に備えている。	B		
	利用者の推移	利用者が特別な事情がないにもかかわらず前年度に比べ減少していないか	コロナウイルス感染拡大の影響により、宿泊、浴室等の中止と講座の人数制限や中止で令和3年度は減少傾向ではしたが企画及び出前講座を積極的に展開し令和4年度は利用者が増えてきている。	B		
サービスの水準	サービス向上及び経営改善に関する独自の取り組み	サービス向上等に向けた独自の取り組みは実施されているか	わくわく体験館とささゆりクリーンパークでの共同イベントの開催や某有名ブランドコラボ企画によるガラス工芸体験を行った。出前講座等の回数も増やしサービス向上と経営改善に独自の工夫を取り入れている。	A	館内の団体への環境研修や地域イベントを積極的に開催し数多くの参加をいただきリサイクルや環境に対する住民意識の向上や啓発を図っていることは評価できる。今後、今以上に可茂管内の皆さんに施設利用する機会を増やす企画を考えていただきたい。	B
	利用者満足度調査における施設満足度	利用者の施設満足度は高いか	利用者アンケートを踏まえて、要望等にも対応している。また、企画講座も好評で、定員を超える人気講座もあり追加講座も開催していることから利用者の満足度は良好と思われる。	B		
	PR・情報提供の実施状況	様々な方法により、積極的なPRや情報提供が行われているか	ホームページ及び広報誌により管内10市町村にPRと情報提供を行っている。作品展ではガラス工芸の魅力を発信し、施設内ではガラス細工が多数飾られており、工芸に関するPRポスターなど積極的に掲示している。	B		
	苦情処理の状況	苦情に関する帳簿が作成され、内容は職員に周知され、適切な対応がなされているか	利用者アンケート用紙に苦情又は要望があった場合は帳簿に保管され情報の共有をおこない適切に対応している。	B		
収支状況	指定管理施設の経理事務の状況	指定管理施設に関する経理事務は適正に行われているか	適切に行われている。	B	経理事務及び財政状況は適正と判断する。	B
	指定管理者の財務状況	指定管理者の財務状況は適正か	施設の財務状況は適切で財務指標で経営状態を分析した結果、良好である。	B		
総合評価			新型コロナウイルス感染拡大の中で適正な感染予防処置をとりながら、施設の運営管理に務めた。なお、ガラスの講座の中止や利用者制限を行いながらも利用者を受け入れて、新企画等も積極的にを行い利用者人数も少しずつ増加傾向となり良好である。	B	「所見」欄に記載	B

**所見** 令和3年度と令和4年度はコロナ禍の中でも協定書及び事業計画書に基づき業務そのものはコロナ禍でも適正であった。また、新しい試みでは某ブランドとのコラボ企画によるガラス工芸体験を行っており、今後の継続にも期待したい。  
 可児市以外にも広報誌以外の違うアプローチでPRを行い管内全体が施設を利用できる方向に進めていただきたい。さらに、海外からの方々にも活用しやすい場としての施設としてほしい。

## 5. 参考（評価基準）

### ① 区分別評価基準

#### ◆業務の履行

評価	内 容
A	適切に実施されており、より効果的に業務が実施されている
B	適切に実施されており、特に改善等を要する事項はない
C	おおむね適切に実施されているが、その一部に改善を必要とする事項が見受けられる
D	要求事項が実施されていないか、実施されていても適切ではないため大幅な改善が必要である

#### ◆サービスの水準

評価	内 容
A	サービス水準の向上が認められ、独自の工夫も多く見受けられる
B	サービス水準はおおむね維持されている
C	サービス水準の一部に低下が見られ、サービス向上の努力が必要である
D	サービス水準が低下していると認められるため、サービス向上に向けた大幅な改善が必要である

#### ◆収支状況

評価	内 容
A	収支は計画に比べ向上が見られる。財務状況も良好である
B	収支はおおむね計画どおりと認められる。財務状況は良好である
C	収支のいずれか、又は両方が計画を達成していない。財務状況は良好である
D	収支のいずれも計画を達成していない。財務状況も良好とはいえない

### ② 総合評価基準（評価指標の①②のいずれかの基準を採用し、評価を決定する）

評価	内 容
A	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%以上である
	② 適切に実施されており、評価できる点が多く、改善が必要と思われる重要事項もない
B	① 全ての評価がB以上で、Aの割合が60%未満である
	② おおむね適切に実施されており、評価できる点もあるが、軽微な事項を含め改善が必要な事項がある
C	① A・Bに該当せず、Dの割合が30%以下である
	② 適切に実施されている部分もあるが、改善が必要と思われる重要な事項もある
D	① 上記のいずれの評価にも該当しない
	② 改善が必要と思われる重要な事項が多く、早急な改善が必要である